

アンガラ・小劇場の 成果と課題

現代演劇の未来に向けて

明治学院大学国際シンポジウム
Meiji Gakuin University

特別講演
ジョルジュ・バニユ (パリ第3大学名誉教授)
「西洋のアンダーグラウンド演劇の系譜」

2016年12月17日(土) 10:00~17:30
明治学院大学白金キャンパス 2号館2301教室
入場無料

黒テント『阿部定の犬』撮影=糸川耀史

Underground / Little Theater

状況劇場『由比正雪』撮影=井出清見

主催◎明治学院大学言語文化研究所・文学部芸術学科
お問合せ◎明治学院大学文学部芸術学科共同研究室 ☎03-5421-5380

一九六〇年代末に世界同時に新しい演劇のムーブメントが起こった。日本ではそれはアンガラ・小劇場演劇と呼ばれ、多様な角度から演劇のラディカルな問い直しが行われたが、その演劇運動は過去のものではなく、現在も進行中であり、現代の演劇にも多大な影響を与えている。

今回の国際シンポジウムの重要な課題として、アンガラ・小劇場演劇が達成した成果、その核心を浮き彫りにすることにも、アンガラ・小劇場演劇が見落としていた問題、また試みられたが継承されていない課題など、その限界や問題点についても捉え返す。そしてそのため、それを国内の研究者だけでなく、海外の第一線で活躍する演劇研究者、パリ第3大学名誉教授ジョルジュ・バナユ氏、トリリア大学名誉教授スタンカ・ショルツ＝チョンカ氏の参加を得、その特別講演、発表を軸にして、多様な視座から対象化を行う。そのことを通して、アンガラ・小劇場演劇のムーブメントの核心、意味が的確に分析されることも、さらには、日本の現代演劇が抱えるアクチュアルな課題、困難を超えて行く手掛かりもそこで探求される。

明治学院大学国際シンポジウム

アンガラ・小劇場の成果と課題

現代演劇の未来に向けて

2016年12月17日(土) 10:00~17:30
 明治学院大学白金キャンパス 2号館 2301教室
 入場無料

ジョルジュ・バナユ
 George Banu



作家、教授。ルーマニア・アカデミー名誉会員。最近では2014年のフランス・アカデミーの大賞を受賞。ヨーロッパ演劇賞の会長であり、国際演劇評論家協会(AICT)の名誉会長。パリ第3大学をはじめ、ヨーロッパの数大学の名誉教授。シビウ国際演劇フェスティバルでは数年間アーティストたちとの交流を通して、フェスティバルを活気づける役割を果たしている。最近の主要著作:『人間の後ろ』、『幕、または世界の割れ目』、『現代の場面(背景)』、『神話学とミニチュア』、『劇場・演劇の愛と不愛』、『シェイクスピア』、日本の観劇体験を記した『戻らない役者』など。

アクセス

都営浅草線「高輪台」駅、南北線「白金台」駅下車徒歩7分
 南北線「白金高輪」駅徒歩10分
 JR「目黒」駅、「品川」駅より都バス(品93系統)で5分
<http://www.meijigakuin.ac.jp/access>
 (キャンパス案内)

主催◎明治学院大学言語文化研究所・文学部芸術学科
 世話人◎岡本章
 お問い合わせ◎明治学院大学文学部芸術学科共同研究室
 TEL. 03-5421-5380
<http://www.meijigakuin.ac.jp/~art>



プログラム	
10:00 → 10:10	開会の辞 岡本章 (演出家・本学教授)
10:10 → 10:50	アンガラ演劇の達成と限界 問題提起とシンポジウムの意図 西堂行人 (演劇評論家)
10:50 → 11:30	アンガラ・小劇場と 5、60年代アヴァンギャルド 土方巽との関係性を軸として 岡本章
11:30 → 12:00	アンガラ演劇とメディア戦略 演劇センター 68 「コミュニケーション計画を」中心に 梅山いつき (近畿大学特任講師)
12:00 → 13:00	昼休み
13:00 → 14:00	アンガラ・小劇場と能 鈴木忠志、太田省吾、岡本章の実践 スタンカ・ショルツ＝チョンカ (トリリア大学名誉教授)
14:00 → 14:30	演劇の公共性と公共劇場 アンガラ世代の演出家の仕事から考える 藤井慎太郎 (早稲田大学教授)
14:30 → 16:00	特別講演 西洋のアンダーグラウンド演劇の系譜 ジョルジュ・バナユ (パリ第3大学名誉教授) 解説発表 穴澤万里子 (日本大学教授)
16:00 → 16:15	休憩
16:15 → 17:30	パネルディスカッション アンガラ演劇・前衛・身体性 登壇者 ジョルジュ・バナユ スタンカ・ショルツ＝チョンカ 岡本章 藤井慎太郎 (司会) 西堂行人
17:30	閉会の辞